

講義名	教養特講 (ボランティア入門)/ボランティア入門			授業形態	
担当教員	種田 成則	開講期・曜日・時限	前期 金曜日 5 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生

**主題と概要**

ボランティア(活動)は、「市民の自主的な発意による無償の社会活動」と解され、従来は貧困や差別、あるいは各種福祉制度の改善や是正に向けた活動として行われてきた歴史がある。わが国では、先の阪神淡路大震災時の救援活動を契機に、ボランティア活動が広く社会に認識されるとともに、その社会的意義や役割がグロースアップされた。今日では社会の変化に対応しつつ、多様な分野でボランティア活動が展開されている。そこで、この講義ではボランティアの歴史など基本的なことを学ぶとともに、今日までの地域社会の変化やその下での活動、まちづくりや災害救援など様々な活動を適宜紹介しながらボランティアについての理解を深める。

**到達目標**

ボランティア活動の基本理念を学び、活動が自分の身近にあること、少しの時間や労力、資金の提供などを通じて参加・参画できることを学び、自分と社会の関わりや協働の意味を自ら考え行動できるようになる。

**提出課題**

期間中に中間テストを行う。中間テストは評価の対象とする。

**課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法**

中間テストの講評等は実施後の講義で行う。

**評価の基準**

中間テストと定期テストの成績を総合して評価を行う。

**履修にあたっての注意・助言他**

・この講義は、自身の日常生活をおして感じ、考え、そして行動を始めるためのきっかけづくりである。したがって、能動的な授業参加に勝る学習はない。  
 ・遅刻、途中退室、私語、携帯電話の使用等は他者への迷惑行為であることを理解すること。そのことを理解できずそれらの行為を繰り返す者には厳しく対処する。

**教科書**

・ 使用しない。

**参考図書**

・なし。

**その他**

適宜レジュメ、資料を配布する。

**授業計画**

- 1 イントロダクション ボランティアとは・・・
- 2 今日の地域社会とボランティア活動
- 3 ボランティア活動の基本的な性格・自発性・公共性・無償性など
- 4 ボランティア活動の歴史 明治期から1970年代頃まで
- 5 ボランティア活動の歴史 1980年代から今日まで
- 6 ボランティア活動と法 社会福祉法とボランティア
- 7 ボランティア活動と法 NPO法とボランティア
- 8 NPOの現状と課題
- 9 ボランティア活動をめぐる最近のようす
- 10 ボランティア活動と地域・コミュニティ・ケアからノーマライゼーション、インテグレーション
- 11 ボランティア活動の地域づくり・まちづくり
- 12 ボランティア活動の推進と課題
- 13 ボランティア活動と地域福祉-あるため「地域とな何か」を考えてみる
- 14 被災地を支援するボランティア活動
- 15 まとめ

**授業形態(アクティブ・ラーニング)**

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

**準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間**

学則上、2単位を修得するためには15回の授業と、1回の授業に対して、4時間の予習・復習等の教室外学習が必要であるとされている。したがって、日頃から新聞の購読、テレビのニュースや報道番組の視聴、インターネットの閲覧を通じてボランティア活動をはじめ地域の現状や様々な活動のようすについて調べておくこと。また、授業後は配布された資料、自身のメモ等をもとに知識を整理し、要点をまとめて理解を深めること(2時間程度/週)

**卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連**

この科目の到達目標は法通科学大学の学生が卒業時に身につけておくべき資質・能力の「知識を知恵にする転換することができ、論理的思考力をもった人材」の要素としての情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力と関連している。さらに「創造力(新しい視点と豊かな発想)を持った人材」「自主・自立の精神を持った人材」とも関連している。

**双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述**

**実務経験の有無及び活用**

**備考**